



くらしの中のSDGs Vol.2

「つかう責任」ってなんだろう

今月のテーマ (ゴール12) つくる責任 つかう責任

17個あるSDGsの目標の一つ、「つかう責任、つかう責任」は、大量生産・大量消費の生活様式を見直すことで、限りある資源が健全に循環する社会に変わることをめざしています。

1年の間に地球が生産できる資源に限りがある中、現状では、世界全体で地球1.7個分を消費しています。また、全人類が日本人と同じ生活をすると、2.8個の地球が必要だといわれています。

資源の消費が生産を上回る状態が続くと、お店に行っても食品や衣料品など必要なものが手に入らない状況になるかもしれません。資源の使い過ぎを改めるためには、商品やサービスを提供する企業の努力はもちろん、消費者一人一人が生活様式を見直す必要があります。

持続可能な地球にするため、今日からできる取り組みを紹介し、身近なことから「つかう責任」を意識した生活してみませんか。あなたの行動は、社会の変化にきつとつながります。

取り組み例 その1

距離の短い移動は徒歩や自転車。距離の長い移動もマイカーではなく、電車やバスなどの公共交通機関を使う。

輸入や長距離輸送されたものより、近い地域で生産されたものを選ぶ。

消費燃料の削減につながる

取り組み例 その2

食品は必要な量を考えて買い、残さず食べる。

食品ロスの削減につながる

取り組み例 その3

シャワーや歯磨き、食器洗浄などで水を出しっぱなしにしない。

お店で配布している使い捨ての箸やスプーンはもらわない。

修理や手直しができるものは、手入れをしながら長く使う。

資源の節約・削減につながる

【問い合わせ】消費生活センター 823-19433

撮りだち Piccup photo スNews

まちの出来事を写真でお届け



3月5日(日) 4年ぶりの南国土佐皿鉢祭

「南国土佐観光びらき」の一環として行われた皿鉢祭。土佐の山の幸や海の幸を大皿に盛り込んだ作品が大橋通り商店街のアーケード内に展示されました。



3月10日(金) シェアサイクル PiPPA(ピッパ)

市内に設置された拠点(サイクルポート)なら、自転車をどこでも借りて・返せるシェアサイクルが始まりました。



3月18日(土) こうち子どもファンドフォーラム開催

10年目を迎えた子ども主体によるまちづくりを、今後さらに発展させていくためにはどうしたらいいのかなど、一人一人が熱い思いを語っていました。



3月12日(日) 土佐山の嫁石の梅まつり

全国各所から集まった約1,000本の梅の花。訪れた方は、梅園内に咲き乱れる色とりどりの花の壮麗な景色を楽しんでいました。



3月27日(月) 上下水道局新庁舎が移転しました

針木浄水場北側に上下水道局の新庁舎が完成しました。津波の浸水区域から移動したことで、災害後の復旧作業などに迅速に対応できるようになります。



3月25日(土) 県観光博覧会「牧野博士の新休日」オープニングセレモニー

牧野植物園で行われたオープニングセレモニーでは、牧野博士に扮した濱田知事が登場。松坂慶子さんと中村里帆さんも駆け付け、開幕に華を添えました。

2023 3.1 [水] 3.31 [金]

詳しくは Facebook で▶



歴史万華鏡

(127回)

明治三十年 高知の営み

オーテピア高知図書館

司書 南昇平

高知市民図書館が所蔵している貴重資料の中に「高知県商工家案内」という本がある。これは明治三十(一八九七)年に高知の商業の発達を目的として書かれたものである。前半は「土佐商業地誌」と称した高知県の輸出入など商業に関する統計が、後半は「商工家之部」として県内実業家の広告を集めたもので構成されている。

この資料において特に注目すべきは後半部分で、県内全市町村分ではないものの、七百八十ページにわたっておよそ九百三十もの広告が掲載されている。それらには業種・商品・店の場所・店主名または店名などが書かれており、同時期の資料としては類を見ないほどの情報量と質を有している。広告からは、地域ごとの商業の特色や、当時はやっていた商品、和紙やサンゴといった伝統産業などさまざまな風物が見て取れる。

一つ例を挙げると、「酒類醸造 銘酒白菊 高岡郡佐川町井上和之助」という内容の広告がある。この井上という人物は、佐川の岸屋という店で番頭をしていたことで知られている。岸屋と言えば現在放映中の「らんまん」でモデルとなった牧野富太郎の実家であり、酒



「高知県商工家案内」に掲載された井上和之助の広告

造業や小売業などを古くから営んでいた。富太郎は明治二十四(一八九一)年に家財整理のため帰郷した際、井上に店を譲っており、この本が出版された当時には井上家が店を継いでいたことが分かる。併せて本資料の類書である明治四十二(一九〇九)年発行の「土佐名鑑」を見ると、「生糸井(ならびに)諸紙雑産商 佐川町井上和之助」として名前が載っており、十二年の間に酒造業を廃業したことが分かる。このように、本資料を用いて類書と見比べることで、事業の変遷や流行の業種、人物調べにも活用できる。現在、当館の収蔵品検索データベースにおいて、「高知県商工家案内」のタイトルで本資料の画像を公開している。当時の実業家やその商いを見て明治期高知県の営みを懐古するとともに、現在そして未来の産業について考えてみてはどうだろうか。



市役所のお仕事を紹介します

市役所の推しゴト!

公共建築課 編

こんな仕事をしている課です

市が管理する建築物の

建築・設備設計

工事の監理



めざすは 建築の専門家!

知っていますか? 「公共建築」

市役所の庁舎・学校や文化施設、福祉施設など、地域の人々の生活に欠かせない公共施設を「公共建築」と呼びます。

公共建築のエキスパート集団なんです!

公共建築課には、「建築」「電気」「機械」の技術職が在籍しています。主な仕事は、市が管理する建物の建設や改修・維持管理について、3分野それぞれの専門知識を生かし、設計や監督を行うことです。施設の担当課や地域の要望とそれを実現するために必要な費用のバランス、さまざまな調整や検討事項に日々頭を悩ませながら、より多くの市民の方が安心して利用できる施設をめざしています。



木村会館の改修にも携わりました!

その他の業務内容はこちらから



【問い合わせ】公共建築課 823-9464

▲公共建築課の皆さん